



■ 文化交流部会「永守コレクションギャラリーと西国街道ひな人形めぐり」に参加して



初めて文化交流部会に参加させていただきました。今回は向日町の「永守コレクションギャラリー」の見学、この歳になるまでオルゴールやオートマタ（からくり人形）等のことに関しては深く考えたこともなかったのですが、ギャラリーで丁寧な説明をいただき目の覚める思いでした。

時計の技術からオートマタへの応用、次に音楽を自分の部屋で聴きたいという願望からオルゴールへの展開、さらにはシリンダー型オルゴールからディスク型のオルゴールへと発展していく過程がすんなりと理解できました。

続いてオルゴールからレコードに代わり、レコードを聴くためにゼンマイで動く蓄音機から電気で動く蓄音機、ステレ

オへとつながり、メディアもレコードからテープ、MD、CD へと展開されてきた過程が一本の線につながっていることがよくわかりました。オルゴールにはモノづくりの基本がつまっているとの説明でしたが、それがよくわかるような展示になっていて、たくさんの人にこのギャラリーを紹介したくなります。楽しい企画をしていただいた文化交流部会の皆さんに感謝します。ありがとうございました。(会員 久保田 正夫)

■ 映像制作プロジェクト：新作リリースの紹介



2022年に第一作目「京都御苑」をリリースして以来、映像プロジェクトでは同年に3作（他に「水の都・京都」「俳句の聖地・落柿舎」）、翌2023年に2作（「辻子と路地を辿れば京都が見える」「大船鉾の祇園祭」）を制作しました。

2024年1月に第六作目の「声明 魚山大原寺 勝林院」を完成し、YouTubeで公開しました。この作品では、これまでになく趣向を凝らしてみました。BGMは入れず、巻頭からエンディングまで僧侶による声明を流し続けています。声明の厳肅さを作品中に漂わせるためにナレーションは極力少なくし、プロローグとエピローグの二ヶ所のみをしました。

今回は勝林院塔頭の宝泉院と実光院の両住職の全面的ご協力を得て、正月の伝統行事である1月3日の修正会（しゅしようえ）を撮らせていただきました。声明を生で撮影できたのは、制作スタッフにとって貴重な経験であり、この映像記録は都草にとっても非常に価値ある文化的資料になったと思います。ぜひ一度観賞してみてください。

映像プロジェクトでは、これまでは制作テーマを決め、3か月から半年程度でシナリオ作りから撮影、編集・加工を行ってきました。今年は1年を通して撮影し、四季の移ろいを映像化することに取組みながら従来の制作方法も織り交ぜて進めていくことにして、早速年初から撮影を開始しています。

現在9名のスタッフで取り組んでいます。動画や音楽に興味関心のある方は、ぜひメンバーに加わってください。よろしくお願いたします。(理事 久宗 圭一)

■ 旧議場土曜講座 「京都の大火と地震」を終えて



12月16日の土曜講座で「京都の大火と地震」をテーマに90分お話ししました。参加者は74名でした。

土曜講座は初めてで、演壇からスクリーンが見えないなど戸惑うこともありましたが、参加者からの感想はおおむね好評でほっとしました。

退職してからこれまでに、京都文化博物館や奈良国立博物館での解説ボランティア、様々なグループを連れて京都や奈良を案内するボランティア活動を続けてきました。こうした活動を通じて実感するのは、人にお話しするために調べて資料を作り、それをお客さんに説明するという作業により、効率的に勉強ができるということです。人にわかってもらうためにはわかりやすい資料を作成し、お話しするストーリーを筋道を立てて練る必要があります。また、勉強したことを口に出して説明することによって、あいまいだったこと、わかっていたつもりでも実際は欠

けていた知識が明確になります。このようなプロセスを通じて記憶が定着し、忘れにくくなるのだと思います。

また、ボランティアは長寿の秘訣でもあります。長生きするためによく言われるのは、「たばこは吸わない、アルコールは控えめに、軽い運動」ですが、利他主義の実践であるボランティア活動もそのひとつだと思います。利他主義とは、見返りを期待せず、他者に喜んでもらうために献身することです。そうすることにより、そうでない人に比べてストレスや憂鬱に悩まされることが少なくなります。お客さんに感謝されると自分に誇りが持て、元気のもとになる充実した時間を過ごす機会が増え、穏やかで満ち足りた気持ちになり、結果として長寿につながるのです。

ボランティア活動は、効率よく勉強する方法であり、長寿の秘訣でもあるんですね。人のためでもあり、自分のためでもあるんです。こんないいことはありません。(会員 富永 正治)

■ 旧議場土曜講座 「京都のキリシタン」を終えて



3月16日に開催された旧議場土曜講座で講師を務めさせていただきました。90分という長時間の講座を担当するというところでとても緊張しましたが、参加者の皆様が熱心に耳を傾けてくださったためとても話しやすく、私自身も楽しい時間を過ごすことができました。

土曜講座の講師の依頼を受けた時に、すぐに「京都のキリシタン」というテーマが頭に浮かびました。私は中学校の社会科教員をしています。歴史の授業で「基督教の伝来」から「鎖国政策」を扱う際には、京都を題材にした年表や写真スライドを授業に活用しています。

令和3年に都草会員を対象に行われた「京都探訪シナリオコンテスト」では、「洛中のキリシタン史跡を歩く」というガイドツアーの企画書を作成しました。

今回の講座では授業で使用した教材とシナリオコンテストの企画書の2つを活用して、内容を絞りこんでいきました。当日は、京都の基督教関連年表を説明し、京都市内の基督教史跡を写真や地図を交えて紹介しました。「デウス」から名図けられた「だいうす町」の存在とキリシタン墓碑の発見は、京都の基督教信仰を語る上で欠かせない事項であるため、この2つについても時間をとって説明しました。

参加された方々にどれだけ伝わったかわかりませんが、少しでも京都の基督教信仰に興味をもっていただけたのなら嬉しい限りです。今回の講座の準備等を担当してくださった皆様、ありがとうございました。

(理事 伊藤 一彦)